

あんぜんパワーアップ!



防犯ボランティアは
地域の安全力を元気にします!

講演資料

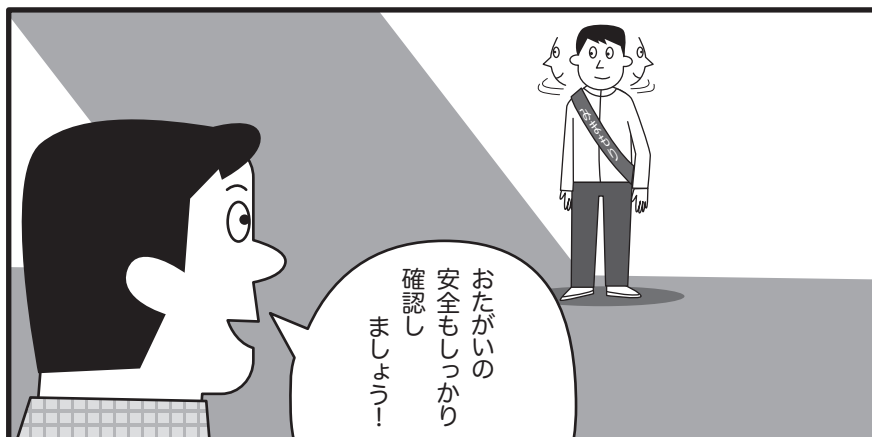
防犯ボランティア実践編

うさぎママのパトロール教室
(文責: 武田信彦)
www.usagimama.com

もし、目的について何をしたらよいのか迷ったときは、町会や商店会をはじめ、学校、児童館、PTAなどからも意見を聴いてみましょう。地域に暮らす人たちの関心事や不安に感じていることなどを知ることは、活動の方向性を決めるためのヒントになります。また、所轄の警察署や自治体の担当部署とも定期的に情報交換や相談などを行い、協力体制を築くことも重要です。

ポイント!

防犯パトロールは、まわりに目を向けながら行います。「困っている人はいないかな?」「ひとりで歩いているような子どもはいないかな?」と見守りの気持ちを持ちながら地域の中を歩きます。また、立ち止まって見守る際は、パトロール隊員が交通事故に巻き込まれないよう、安全を確保しながら行うことが重要です。役割分担しながら、安全に無理なく行いましょう。



地域を見守る目
まわりに意識を向けましょう!

ポイント!

地域や子どもたちを見守るときに大切なのが、あいさつや声かけです。地域でのつながりが薄まりつつあるいま、住民同士の会話も減ってきています。とくに若い世代では「声がかかりにくい…」と感じている人たちが多くいます。防犯ボランティアが積極的にあいさつをすることで、お互いを見守りやすい環境をつくることができます。あいさつや声かけは、自分たちの活動を知ってもらおうきっかけにもなります。

心配な子どもと出会ったら…



※不必要に触る行為は、誤解やトラブルを招くことがあります。
 ※保護者の許可なく未成年者を連れて行く行為は法律に抵触する恐れがあります。
 対応が難しいと感じた場合は、警察に通報し相談しましょう。



あいさつと声かけで
安全・安心をひろげよう！



防犯活動は、継続することでその効果も大きくになると言われています。しかし、くれぐれも無理は禁物です。誰かひとりだけに負担がかからないように役割分担をする、活動頻度は少なくなくても出来る範囲で続けてみる、パトロールや見守りの方法を変える、地域住民や子どもたちに安全の大切さを伝えるような啓発活動にチャレンジしてみる…。

みなさまが育んできた安全と安心の輪が消えることがないよう継続できる方法を考えてみましょう。

ポイント！

- 一、無理をしないよう
- 一、活動の種類をひろげよう
- 一、活動を発信しよう
- 一、世代をまぜよう
- 一、楽しい雰囲気をつくらよう

継続するコツをみつけて
元気につづけよう！

通報・連絡

事件や事故を目撃したときはすぐに通報！
 気になることがあれば各機関に連絡しましょう。

警察通報用電話 : 110番
 警察相談ダイヤル : #9110番
 虐待・子育ての悩み : 189番 (児童相談所)
 詐欺・悪質商法など : 188番 (消費者ホットライン)

※警察署や自治体の窓口の連絡先も調べておきましょう。

自然に触れたり

季節を感じたり

健康のためにも！

